

平成29年度第1回川崎市政策評価審査委員会 摘録

- 1 開催日時 平成29年7月10日（月）9時30分～11時30分
- 2 開催場所 川崎市役所第3庁舎15階 第2会議室
- 3 出席者 委員 中井委員長、川崎副委員長、窪田委員、黒岩委員、松井委員、
米原委員、井上委員、長野委員、松本委員
関係局 総務企画局行政改革マネジメント推進室 前田担当課長
財政局財政部財政課 土浜担当課長
事務局 総務企画局都市政策部 北理事
総務企画局都市政策部企画調整課 三田村課長
総務企画局都市政策部企画調整課 中岡担当課長
総務企画局都市政策部企画調整課 蛭川担当課長
総務企画局都市政策部企画調整課
今村担当課長、小西担当係長、山田職員
- 4 議題1
 - (1) 部会における審議結果の報告について
 - (2) 平成28年度 施策評価（中間評価）の結果概要について
 - (3) 審議結果の総括について
 - (4) 川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- 5 議題2
 - (1) その他
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議内容

議題1（1）部会における審議結果の報告について

事務局から議題1（1）に関連する資料1について説明

米原委員）第1部会については、全体的にこの指標で活動の内容が反映できているのかという議論が各施策についてあった。

中井委員）資料1については資料とおりで承認いただくということでよいか。

【異議なし】

資料1について、原案通り了承された。

議題 1 (2) 部会の審議の進め方について

事務局から議題 1 (2) に関連する資料 2～5 について説明

中井委員) 資料 2～5 の位置づけは。

今村担当課長) 資料 2～5 までが川崎市が行っている内部評価を取りまとめたもので、それを踏まえて、次の議題である審議結果の総括を行っていただきたい。

窪田委員) 資料 3 を見ると、施策 4-5-2 の「個性を活かした地域生活拠点等の整備」については、成果指標と進捗がそれぞれ a、a、A になっているが、資料 5 を見ると、市内地域生活拠点駅のにぎわいや魅力に関する市民アンケート結果が落ちている。この差をどう考えればよいのか。成果指標の在り方にも関わってくるのかと思うが、今後は、市の内部評価としての進捗状況の評価と、市民の感覚の差についての考察の方法について考えていく必要があるのではないか。

米原委員) 資料 2 の達成区分がこれでよいのかどうか。例えば割合が増えていけば a という形で評価しているが、特に統計的な検定をしていない状態で、数値だけで判断されているので、実はそれほど下がっていないところを下がっていると過小評価している可能性もある。そのため、本当に悪くなっている、良くなっているというところとの差が見えづらくなっている気がする。この達成区分の考え方については今後、検討が必要ではないか。

中井委員) 次回以降検討が必要ということ。数値によっては、アンケートなどは誤差があるので、有意に上がっているか下がっているかは統計的な検定が必要かもしれない。

長野委員) 資料 5 は、部会の審議の際の資料にもした方がよいのではないかと。何か部会の際の資料にできない理由はあったのか。

今村担当課長) 4 月上旬に公表しているものなので部会に出せないということはない。部会では施策単位で議論を行ったことから、特段資料として出すことはしなかった。

長野委員) 政策レベルのこのアンケートの結果を見つつ、一つ下の施策レベルの議論をするという形の方が良かったのではないかと思うので、部会のやり方を考えてもらえればと思う。

今村担当課長) 次回以降は検討していきたい。

松本委員) 市民アンケートの回答者の属性について、例えば、お子さんのいる家庭が答えた割合や、高齢者のいる家庭が答えた割合等、細かいところまでわかるとよい。その人が置かれた環境によって関心のあることは変わってくるので、施策が市民に浸透しているか、理解されているかを把握するためにも、回答者の属性も含めて、資料 5 に記載していただけるとよかったと思う。

中井委員) これまでのところを整理すると、アンケートは政策レベル、その下に施策がぶら下がっており、委員会としては、特に部会の中で施策レベルの内容について審議をしたが、関連していることなので、次回以降、このような資料についても委員会の方に早めにお示しいただきたいということが 1 点。このアンケートについては細かいクロス分析などもされるのか。

今村担当課長) クロス集計等を行い、その結果を冊子にまとめている。

中井委員) 分析することも大事だが、分析したものを担当部署にお伝えし、施策の進捗につなげたり、次の施策を考える際の参考になるようにしてもらいたい。

松井委員) 資料3に平成28年度計画事業費が掲載されているが、これは予算であり、執行状況を示すことはできないか。

小西担当係長) 事業の決算額については、9月の決算議会を経て確定していくものであり、現時点で数字の部分は出すことが難しい。評価シートとしては、最終的には決算額も入った形になる。事業に大幅な遅れがあった場合には、事務事業評価シートにそれが示される形になるので、そこで捉えたいと考えている。計画事業費を示させていただいたのは、あくまで規模感を捉えていただきたいという考えで提示している。

松井委員) 評価シートはいつ頃公表されるのか。

小西担当係長) 9月頃を予定している。

松井委員) それでは決算は間に合わないということか。

小西担当係長) 決算承認前になるが、議会に対しては8月末にこの資料を示し、その時に決算見込みという形で一度出す予定である。

黒岩委員) 政策と施策との関係についてだが、例えば第1部会では、地域包括ケアに関する施策を審議し、進捗状況もよいと評価したが、資料5の政策レベルのアンケートでその施策と関連する、地域活動に参加しているかという項目の結果は下がっている。これからの地域包括ケアでは、高齢者の活動だけではなく、子どもからお年寄りまですべての方の地域活動を高めていくことが非常に重要となってくる中で、今の施策レベルの成果指標は、介護予防としての地域活動に参加している人の割合という指標の立て方になっている。成果指標について、市民の感覚とのギャップや、その妥当性の検証が重要ではないかと感じた。

中井委員) 次回に向けて活かしていただきたいが、一方で成果指標はある程度固定しておかないと成果がわからないので、新しく考えるものと元々設定されているもののバランスをうまくとってもらいたい。部会の方で色々と注文が付けられている指標もあると思うので、担当部局に伝えていただき、最初に設定したものは基本的にはそのまま使うのだろうが、その他の指標についてもうまく追加できるようにしてもらいたい。

今村担当課長) 第2期実施計画に向けて必要な指標の追加について検討していきたい。追加することが難しいものについては、評価シートに記入するなど、的確な把握ができるよう工夫していきたい。

川崎委員) 事務事業としては進捗しているが施策の進捗にはつながっていない、あるいは施策はうまくいっているが政策として市民に伝わっていないというところがあると思うが、そういったことをこの委員会で抽出し、それをフィードバックしていく、つまりPDCAのCとAの部分だが、その作業を全体的な総括の部分に加えるようなまとめ方でどうか。

小西担当係長) 資料6の審議結果案の全体的な総括部分にはそのような記載も入れさせていただいている。特に、PDCAサイクルという観点から、資料4で示した現状値を下回った成果指標については、原因分析等がしっかりと行われているか見てもらいたいことから、今回の委員会資料として示した。資料4の原因分析の内容は施策評価シートにも載ってくるものであり、8月末には議会に報告する。我々も内部で分析はしているが、足りない部分は外部の目で見えて指摘していただき、取組の改善につなげていきたい。

川崎委員) 今の説明は、個々の施策レベルでうまくいっていない、又は、個々の政策レベルでうまくいっていないという話であり、仕事はちゃんとしているが成果につながっていない、成果は出ているが市民レベルには落ちていないというところを評価することが必要なのではないか。

小西担当係長) 参考資料を御覧いただくと、施策評価シートの2枚目に「5 今後の方向性」があり、事務事業は進んでいるが成果は出ているものについて、その今後の方向性及びその理由を記載することでPDCAにつなげていくことができるようにしている。

川崎委員) 「5 今後の方向性」については、あくまで施策レベルでの評価ではないのか。

小西担当係長) 「区分」欄を見ていただくと、「効果的な事業構成である」などとなっているように、施策を構成する事務事業をどう変えていくのかがこの「5 今後の方向性」の部分に記載されるため、施策の成果から事務事業構成などにまで落として検証する記載となっている。ただこの部分について、分析が足りていないものが見受けられるので、委員会の意見を踏まえて改善していきたいと考えている。

米原委員) 施策レベルには指標はあると思うが、政策レベルでの指標は設定されているのか。

小西担当係長) 市民の実感指標を設定しており、政策全体の効果を把握するものとして幅広く市民の実感を聞いているが、外的な要因も大きいことから、あくまで取組を進めていく上での参考とさせていただいている。例えば、先ほどお話のあった地域生活拠点についてであるが、施策レベルの指標は上がっておりにぎわいは出てきているが、市民の実感につながっていないといったようなずれを確認し、取組の改善につなげていきたいと考えている。

米原委員) 行政サイドの政策レベルでの指標の設定はないということか。

小西担当係長) 総合計画には記載されているが、あくまで参考とするという形。総合計画の基本計画の期間が10年間なので、10年後の目標を掲げてその推移を見ていくというものである。

米原委員) 年度や2～3年度くらいで狙っていこうという政策レベルでの目標や指標はないということか。

小西担当係長) そうである。

米原委員) 色々と指摘が出ているのは、その辺りに原因があるのではないかと思う。つまり、個々の指標が狙っているのは事務事業レベルの話だが、市民の実感指標はもう少しレベルの高いところにあるので、それを同じ指標のように並べてみると当然齟齬が

出てくる。だからと言って政策レベルでも指標を来年から立てるのかということそうはいかないと思うが、政策的取組とその取組が目指すところが整合性が取れているのかを問ういわゆるセオリー評価、PDCAでいうとPの段階でやるべき活動の一つになるが、その部分が脆弱なところがあり、そのずれを引きずってDCとききた時に、せっかくだ行った評価や集めてきた数字やデータが何かかみ合わないということが起こっているのではないか。

小西担当係長) 市民の実感指標については数字だけでは傾向がつかめないの、自由意見を重要視して個別の意見を分析している。例えば、地域生活拠点の件について、大きく評価が下がっているのは、溝の口のエリアであり、自由意見を見ると、「武蔵小杉が開発されている割には溝の口周辺の開発は遅れている」、「子連れで出かける場合は武蔵小杉に行く」、「まちがごちゃごちゃしている」等の意見がある。こういった内容について所管課とも共有しながら、取組の改善につなげていければと考えている。

中井委員) 施策評価シートの「5 今後の方向性」の部分で、できる限りしっかりと分析をして、特に市民の実感とのズレなども踏まえて、事業構成を考え直した方が良いということを積極的に書いていく必要があるのではないかと。

議題1 (3) 審議結果の総括について

事務局から議題1 (3) に関連する資料6について説明

井上委員) 10Pのところ、給食センター方式にしたメリットを記載した方が良いのではないかと感じた。給食センター方式でやっているところもあるが、生徒たちにすれば温かい給食の方が良いという部分もある。

今村担当課長) 南部市場の取組がこの施策の配下の事務事業であったが、南部給食センターが南部市場に隣接して建設されることもふまえて、附帯意見の中に南部給食センターに関する意見が盛り込まれた。給食センターに関する事業は他の施策に位置付けられているので、給食センターに関する内容をここに記載するのは難しいと考えている。

中井委員) ここに給食センター方式の是非のような内容を記載することは難しいと思うので、来年度給食センターの取組を含む施策を外部評価の対象にすることなどを事務局で検討していただく方向でどうか。

今村担当課長) 中学校給食の事業は今年度、第1部会で審議を行った施策2-2-1に位置付けられている。

三田村課長) 中学校給食は一部で始まったところであり、センター方式での稼働はまだされていないので、基本的には温かいものを届けるという形でやっているが、その辺の評価はまだできていない状況である。

中井委員) 現時点での評価は難しいということかと思う。

長野委員) 政策レベルの市民アンケートの結果を取組の改善につなげていくということを盛り込めたらその部分についてはよいのではないかと思うがどうか。

中井委員) 最後から2段落目の部分に入れていくことが考えられるが、事務局の方で文案を検討してもらい、最終的には私と川崎副委員長の方で確認をさせていただきたい。一部修正は入ったが、そこを除いては資料6のとおりで本委員会の意見取りまとめとさせていただく。

議題1 (4) 川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局から議題1 (4) に関連する資料7について説明

本委員会における総括意見を「川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価に活用することについて、了承された。

議題2 (1) その他

事務局から資料8について説明

松井委員) 来年も同じ施策を評価している可能性が高いのか。

小西担当係長) 委員の方の意見を伺って決めていきたい。今年度は施策の進捗状況が良くないものを中心に選んでいるが、同じ施策はもう見なくてよいということであれば、他の施策を評価していただく形で考えている。委員の方に御納得いただけるのであれば、違う切り口で選ぶことも考えている。

今村担当課長) 施策の選定方法については、次は3月の委員会になるので、次回の委員会の前に委員の皆様にご相談させていただきたい。

長野委員) 以前、選ぶ施策については議論をしたので、そこで挙がっていた施策を組上に上げていただきたい。

中井委員) 事務局の意向もあると思うが、委員会としてある種の基準をもって重点的に施策を選ぶということも大事だが、委員の皆さんも関心をもって評価していただけるような施策である必要があると思うので、皆さんに希望を聞きながら進めていただきたい。